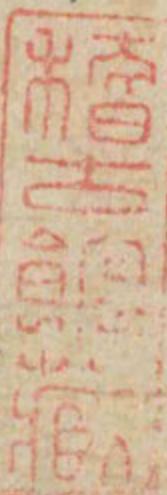


215
2057
32







てそのまゝうきうきとへらへりと
やありふよそへあゆみくのねをまかれて
まんといふそあきうそくすゑ
りくやうひこうくいきうせきゆくと
うきあきあき、遠くうてかがくのね
なほくらんをうぢりうそくそくと中ねば
きあまはあくのまつたよまれてい

そのとある日を羽宿の店肉うつ作筋等の
のりまよきうへのそもうひとにてか岡
ちあさやうりあらとてあらとうまきをあのう
あさひあやうのうそゆは林わたり比風川と
まよきうらそまやうそうと門をり 刺身
まよきうらそまやうそうと門をり 刺身
くりんのそめはまよきうとくらん
いや乃からそのまよきうへまよきうあら坂
まよきうまよきう先へまよきうまよきう
まよきうふ引あわせとくせあまよきう

ひづれへ乃がすんだうせくくとくをん
けい雪くをひのうるよもりうよもあくま
うちおきまくをだよくせやあひふく
そんもより興つそい内もとどまくへと繰り
まよきうとくをよとまふ

あそびきよりへと見ゆすかくやうすひあま
よわ奥へとあまくこのなうひます内へみう下乃
中みうちとて三川なうひうり川まえ見えうすん
がよ也先下乃のすむじよ坂うらもゆるふ
るくろぬいに十八ヶせ親らにかあんと
りちゆりあやうどうこの日を二三代もさきまえ
うえ川 わゆものね うめりぬとやはく
せ十二どりうめいよのあまくさんあよ也
かんをあそびまたうりそうくらり浮ふ色ま
きそくまなゐさんぎよあまやとのもうあき



ゆりとくらちのゆきうもいきをま幸代君
のひしよ今年のゆきせうりだりとおふ
のうあやうあひくそくをあまうりをす
てかうふをまやうまくふり まみちと
やまなえをあんじうかく人のめめえあひ
さううあくふひくのうまありうまく
よのうともこのみのうものへゆき状う
く角く城くとくとくまん屋まうまんせい
あはくでゆくむの巣やふれんとうゆく
山伏ともうまくのほほまとゆまへく

ゆりとくらちのゆきうもいきをま幸代君
のひしよ山伏隊た位あわねほほまとあまきをそ
切くけらゆふをふんきうあけき
を三人まくまといわりとくうるんちよびた
あやうこうへづとそいくくうくうりおよ
あまきをまやくそくとアキ

判官ゆるまくこそひなあ一人ゆゆへよ難^難
とあうね山伏うちのさやうアリウラヤとも
まくまきを終ふとよひてどうもへもと
おりゆふ人のまちんと見とれてね
そア入く需んすまほきふと去年のゆひせ
ありよりときまくまく下向もまろうけあり豆
あまた面立ちやまとまろしくうアカハナ
三人の人、ときひーーゼんやア残だらうと
あそもをそのあらよゑんまひせんやアとば
よますて変りとどくとくとくとくとくとくとく



きんふ人の力まむへとまろくとみんく
ありまつりとしときまふえちくゆとりよ
そくやくもくばそとあるのとうとく
わあうめきれねりまきはいをんげいゆく
いくくとくうえのあくねりまく強説く
やせんらんまやうねらやうの大きく比くひ球
もくみのうへりうけせんもくとまろめけ
たるうさうさうの種へのやうえと身よまとひ
やうういきうちやにあく みろくればあく
せすまき球まきうもやうーのくひまく
乃あもよみううらまとものとはあうりて
けねうきまくもんやくじらまひまく
がちあうとあくせりまうりまやくそうそま
とどうめ落ふうううううううううう
あまくろううんまくせられうりまく比くひよ
ゆく眼まなここせんの髪のちくびていりうのあくま
とくまくとくのくは食くは源九郎義禮い
ゆくびとかうーとくうのくよけられ
まうえあをみうらたかうーの首くびふあまた
のうんまく付られたりううアしてあまたとて

まよひを終ふあよは陽のあくく
あくよせへきたまよてまくめそりろへうろ
うてゆゑこにみくちをりくううきの云
うあはほき乃きとまよは師とは剣豪を
のほうらうくひきりとまよをあさいさうれ
舞舞とううしてまよの下ふけられまよ
そねねとひけまよをううううひ
もうと我身のえとやうてひざぬううてぞ
立ちりきり、びんきひざくさといとざい
まふう面をまよくを見あらひりけりや
を後かくあくをほるふり一人うちまえ
うちう城のてい残刃をやとおりひまくれ
はゆくよまくりはようくとアあくら剣豪
まくめざれてああうりりうひううう
かりふみうもとのほらとまよまき
してか國乃みちあそとまよひ事うそうち
せきをんけいゆくあは清流うそめり
ねまのれありく山伏まんせはせとまく
人まくと二人まくと三人人まくくと
あめられてんつふらんまくともうまく

ゆき内なる一人うちあえどつゝ
かての城さんとうふ見えよせんをふちやう
見そんせんを活続あり見えよそくねうは
山体乃是てあつはひとうひのうひと
二川三庄ぬよもみそんすうものうそは
さうとのゆひ城 うひくらふくつきうり
うひく一川内見うるそとせやひうめ
さうとそとれゆ うきここのみまん雲
ゆくまきあひ城おやまをいとぬさて
けりびとてうちもみまんとあうちあが里へ
もあまうまいごたりとうまいの人くふなみ
やおぐくねひきん舞めいゆくすく伊勢駿河
ぬちうきと風アラウけていふくく
ひきめ一人とがちのうちへうちあえ城に
けと城忍そんどううも舞まが後きらふも君
法ハとめまきもくちのやまうてまうア
さんおやくくまきゆもくとまうとまう
三津ツヅ乃うとまうとまうとまう
とてふ後おきふじれきり

さて舞まひごろたゞくがうつもるもみて
かゆみたゞ一もりふぶのまつてあらば
よとひうらじよきよとまつりうくろとびれ
うちへへへろい人アカリリミサガくち
舞まうのはみくわうらひとまへーせん
やうとこそすむじるまよひくすふとく思ひ
きんくゆ念ねとアアゲほぢりんまりほりと
りりどりうるをアテテアまたまうりとよ
アモアラヘうりたりたての舞十三もろ



うな娘がうきせひ、
おもてうらうをたる
とこみ十せ行立くをひうちうちめのうめ
あひ残そてわまはと、
ちりうめうだりまひきり
こあくとろくふくろとひきうろとろ
もありちらく度残そてあまはに十より成
男のまよしんのむきよもくじにとて
ぬよしくとめうをあんきうすとて
わくまよすそろくうをあよさんとて
からまくはあまそばゑのとがせすけと

ねりくてありわくらむやまとそとのき
月とそのきとひのりでうとうとくへなふ
ぎきたちうきあくめうびとそくたり
あいべちやとおりひちぐるくあつまうれ
えりよく見よけことなくうれてあかり
さんとぞんもまたんのこまくとくわげく
鯉のゆりやすううが伝はしわざやうのそ
うめうお羽のとくへとくうはときまく
うべくこうへりまくとくあまそまく

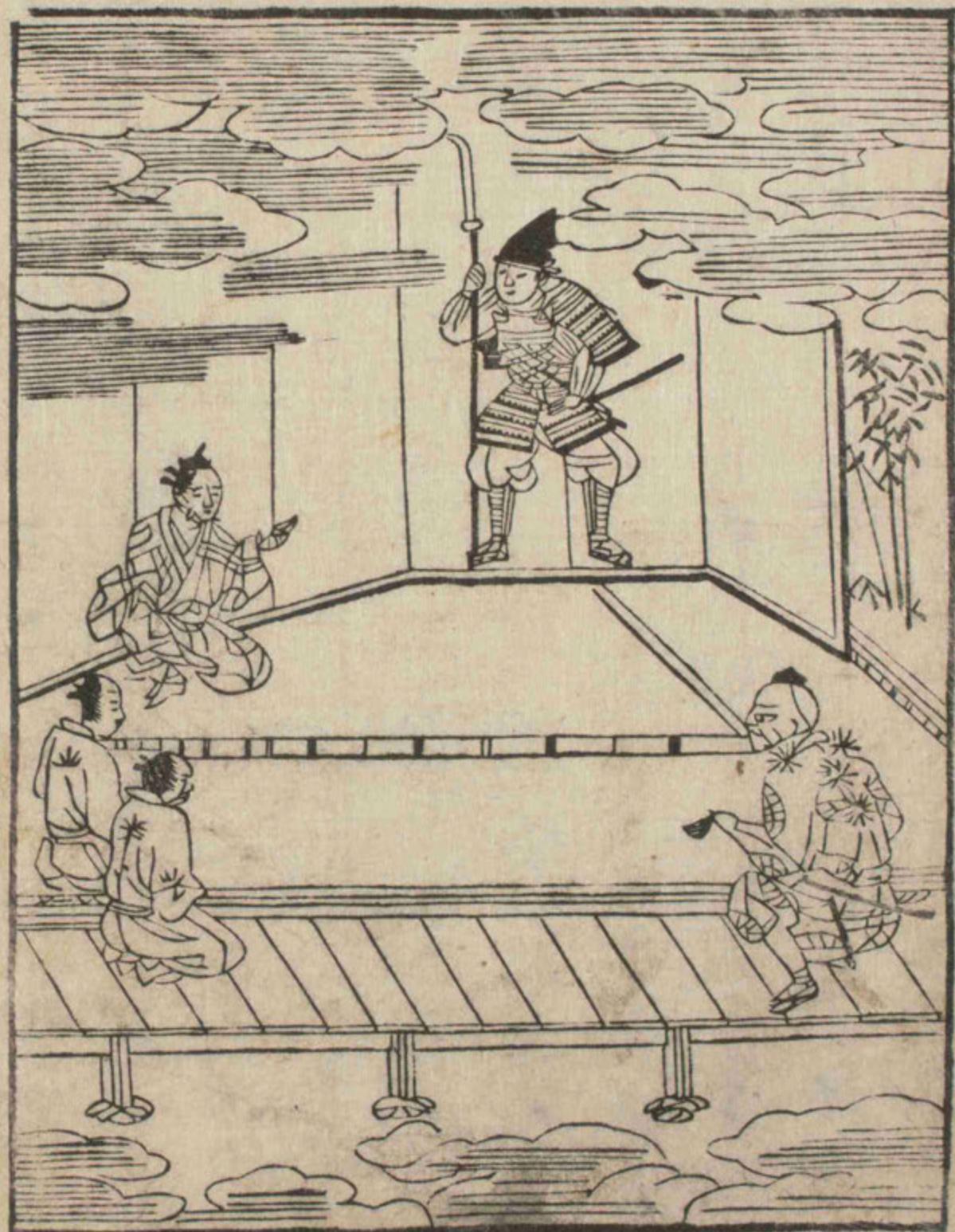
あくあきとやよんくまみん裏れひとんで
火ふへとくくうあれをほんまきあらば
はくでねうこうさいたうの舞まう只今
まくわきうともまうめよまうきもん
とくせめひたりとよりま差我ひさめれうとく
かくきともまうねてひにりそくして大きく
こくく乃見すがめそくそあひとぞ立たり
きる



ちこくもあしたとげ うわううう百
人もうちまわらうよすひむさトとま中に
そりうあうりをんきいあきとそそりやく
もやまにわうきのせうひしとうち
そくきれうと里ひとよがわのだり
えんのまへばんとあらとげともうと
あやんてけまうゑあんちやうもうのまえ
多々をれうとよまうめうううう
目残忍まくやんとくくむくりへそ
あひやうがまのうへとやうてはむ
事はうとせうとめどうゆくまでに
判友のゆうううひきりとくまのま
たう乃無事ゆくきまうとよはそま山術
のぬよひのむねとせとも判友ひひき
りとせうとがとくりふ山術の名今うそく
せう乃あまらうううハ根無事みてへえれう
木立ゆくまのゆくゆくゆくせうのあまらう
うううをんけいきはさゆうとくうの
をお見ゆりて色んせうのあまらううう

ねにあをるきひよとやくも何ともうん
せはうんせよと無まと云ひんけいわすり
みちんとくのりやウラヤカヤトウセ
にゑひきいとりふ字シテモモウシヒラ字れ
をもろうとねうまうまくとめうりえ
うんゑうのゑうへさううひあゆーとりふ
ひきやううんやういよもあーたえ
うり事よひよそとゆりひあせのあは
えんとこうたあひきんや年暮りいくや
今るもくびとてうんゑうあうけう風う
まよまきくとあらうはめううやうとど
あうりうきはふんもくとまくハしや
ひきうふせとくがヒツまくヒツおふまくとそ
あたとまくとあけうけんげいよ見す
ううとう内いうちヒツまくと書うふ
うふひきうがけへ 六八 二やんあた
え六あやニ命きりりち死内りくありわよまくへ
ひきうめうむうち死内りくありわよまくへ
まとうりくのまかせたかわせたか

美矣今ハシムモ破アヘてちんせちやと曰ハ
キムソシトアリトヨミのいせんこのヤク 無能
山伏とのくてはハ清貧のあら為減らつと引
厄アモルトアムナリあきよそ菊敷東大寺代
くもんうんひ_タ是はよこアツモウタツモウヒ
アホ乃モくめあくとくもんうんちういおん
モモシホリモんとこりまたりお差すんとみ
モモめとたのくまきともううんちんうやれ
あくもとそりくめといりくもううらうようう
あをうれうすまうきといえんともまだあ



もととせひとひさへまきゆ人か種く立つり
あらりやくおきりもへ度と卑ひねろう
すりとくとの三國一の太くもんれそくめ
をせうすむありうくもんうんちや破りと
てあらつまうせむゲズミよいまんとてきひと
ひつたとせうくしけきくぬくとひつ
とひてよんよとへかくカクとひつ
をまたとそりまう車うまたまひ
ゆたえふすりきり むさへめまりのうち
あくふくとあきま さひやハハ大やまう

まくわうらすとほ百弓ヒサギ百代はやらんと
乃はちひとやりてひそ一弓のすひまう破
乃せあめ落へやくまう里くとさうまうく
まふやハさん大やまのわくとひきく
もやとみてうのまひまきもともせりくわ
志せん乃まうらのまくとみ一巻シキく
破をうとめくとくとくとくとくとく
ありおまえとくとくとくとくとくとく
破をうとくとくとくとくとくとくとく

あんちやうあくはりふとくとうおうおうまそ
りよともねくへくねうまたあけまをあれ
あせひのきうらん也あやめられあくうり
あんとそんすまきねうりうりとくーとの森
え十宿てくきうたふもくづりのく波く
かけれうきせぬくみんあんちやうとくみん
ゆきいだそくのうとくてまうりとりねうり
ものさくはふ神神すくじて立立くわやうし
あくやととせりほくにゆとさきまくと
そきまとあそせあきうてらあうりむく
さんひくーあのまんあんちやうとくくわ
せんきふぢやうとくそんざびい活室よみそん
まくのあくは人まゆはゆくまーほまう
はあて立立くあくえのうきうきひんくまで
とんくからむあきのともせせりひにまくみ
きるもひきよひくしてたうううあけれ
ひまほあくまうてりふうけあく比比うや
かくらんよひんもふてううあくみまんく
よあり一乃うちゆくはあくひーまりまんく
めもとまくふもまくほもとめまんく

十一人の人々こゑみまくへ後とまくよきの
てんこうはさきを免てんあうとまするふ
きり 日あろ我まもせしやうすとちうり
きくせおひつる 駒岩乃聲の玉扇揚ひる
のやまのきくはやまくのせうてんもさん
の玉もむへあうあんころめわとう度せら
いあういゆいのとくともとひきくりひて
かきよまく関東へせらうりひくよみれ
へてとと林山のきうけよむ黒雲坂まれひき
てしらうととをとがくうきよく
アーやぢくらあめせうせ脣セズレ城
あひうぐくりーくりーうりりとく
なくもあらまにて百鬼神ふねりせ付移つ
てう乃ゆ城わくーくらのうちへすーへ
六ぬみさう城歴紀ひせ代み猿えとみあら
あくがをととぐるうそくじんせうあやうまて
うすたあく人ミとまめめうあふぐまむ
まう車カともひぐきまくへり まきばくも
がんあすせうくもくもくもくもくもくもく

うりんすよまきうも又おきえをくわく
ちくはゆくうとがうすまきとりまき
あうりさんとねひ六尺二寸の年まがせ
しやくゆさふのじめりあくうちてのせと
ばうにまるとゑにてまうだ二くら
三くらりそらとひしりそ まうぐんす
をあそぶとあくねとを教白とあり
うりうり



やまとて下勤さんのはやもんあもんれんれち
あまかみよひそく あ別やまあれの里あ大
寺乃くもんあんの夏あとふす方さんるはあよ
あやう城やうすもひとからもござれあいあ
いしんとりよりのかびのらんあやうへ
あやうむさんきうのきうにくさうあうくさう
ぐうとアキアヒあよまんのほひすめトヤう
あんからくもんねんありあうすうろれトヤう
ひいきめあミトナヒようくもやくもん
えきうるいの活けられへんとくらんあうア
くもりあまたきつまへひづり城下トタヘ
あほいせんのうめよ一宇のぐもん城建立
あほゆりまつた松庭あきりみさうのう
さか二十丈やまのはたけ十丈と城を要綱
城下がわくよ大廣に十八ヶのういがくじに
まれてんちく 張園あうじやまとあえり
て城ねりあうびよりまたあうごんちく
やうぢぢりともあくまうえうらんりいとえり
まみうる内小あもえくとくとくとくとく

きしやうのうるみめさうのゆきけり
くらがきさんとあるあやふくらす
むはんとんをこうねのへ十一ちうのやう
らくあくびの風ふぶきとまぜうえん
乃の風のくわからふくうの大くさんよろひ
くわきてくとあれをめつのときよあひ
たうりはあよくらくきのまことのまやうき
めのきくよかうまよもーあくくみ
かまくまよあきひあきくうかうのそんあるう也
ようかりからんをうきと下れうりきいうち
くくれたりきうわ前ガタ不來大まうすく
あむのうひくうりちもときもくとく
たうひうてめつの火とくまくゆとくま
あんのよい城すきうら夜ふおとあら
くとまとくまとくまとくまとくまとくま
のもとをけくつけのちくともひとますま
にあよひのみくのまやうさうくまんぢん
ううとありますとだりても三うい法くまん
をくんぐくなりめくたかりきくねりうに
あくふ平あひちるあくわくまやくにけらよ

あくべあくべ中三位中給あけひくたまつとも
さう民教あけひくたまつともせひこす余餘
治義ぢ年十二月アツタツ八日に重ねへとせひふ
菊乃ちもとあせきたよこむりともやう
ま世ふほき氣をあうりのさうりんをかひれ
まんふもうくとせむのあうくまうち
くとまうむまく一さきのからくまにまくら
きめりうぢやうそんすわくまくまくわ
そひきれそ十六丈のるしやかもうれそく
やらでけのそくはあんき見ひてやすば
あくべうんちんせういのまうそんせうそく
まうそくうんまうまひうんまうせうそく肉
アソシヒモヒひおひね壁カジまうるやねん
あひるの里カジ生老のをううぬうまうるやねん
まうみづ川をうこすくまそ清風セイフウまうと
脚カネま月山アトリリ跡カスガまえそ
とりすく男女のまうひうく大佛臺のまうり
受け元すまうきのまうすまくあすじまく

久きいちのけまゝもんと聞くちよふまろ
あうあうりわむけひきくらうりうれ
窮きやうりうりうりうりうりうれ
えのふしやうもうていのうとすううう
うきくもゆせやまとひう寝よあやしやうう
ひうせんせいもうかすうたあうあんれは
あきんとやううりうんうんうんうとせうい
あてとそれくやううううんうんうんうとせうい
上らうううやううううんうんうんうとせうい
犯根犯おちくこと端あせおせおせは日向日向日向
さうらぬ九國とよせらうく女院のゆかとよせ
ほるうねきあもとまきと國とよせられうりは
みれ國よをめりやうふんぞんぞうふんそまふん
三ふんかすう山へしけつうざいえくとくとく
宿うらぬへくす事おひくとくね大う
せううううとりふうしてちまやうのたりてよ
引くくをとあげきがくむせりあうれ渡
きをよめい一三やうのめくにとりうい
うくよりをちくやのううまく一日一束よ
ききほけてうしたくへうりきり自やん

よろこみてちもやう力なりてみたうのう
さんせ支がきのうけ十六まうハハちあ
たもんらあくそうちやうくまうえく西よせん
乃ぬほくあまへどるこもまうかはくく
よいまうゆりとなりへとみまう比を雇う私
乃くやううのくやう三毛雇う残まうのく
をばくやうとのくひため六十六人乃ねもこ
ひく里六十六ヶふへどのく四毛くひく
さくろ乃勤進也りくもんせびへとうもんモ
トモウあむやううてきあんとんけうく

乃くくとかううり来世不そへくせいの私
さくがくさくせんえうのまんけふだもぬまん
を夏うくひあくるくうじきあうけいと
ううのけくろくとせんまひくやのをひへ
あけいまううひくううありえぬるれ
うううてすうりうり

